

三重県との懇談会

8月1日(火)、中経連は三重県との懇談会を開催し、双方の今年度の重点事業に関する情報共有、意見交換を行った。三重県からは鈴木知事、渡邊副知事、稲垣副知事をはじめ10名、中経連からは豊田会長、上田副会長、水野副会長、小川副会長をはじめ11名が参加した。懇談概要は以下のとおり。

豊田会長は、「異分野融合によるイノベーションを生み出す仕組みづくり、観光資源の磨き上げ、旅館などのサービス産業の生産性向上、県南部を中心とした農林水産業の活性化などについて、三重県と協力しながら取り組んでいきたい」と述べた。

一方、鈴木知事は、「東海環状自動車道の西回りや新名神高速道路などの整備が進めば、企業誘致の増加や生産性向上が見込まれ、この地域の競争力が向上する。引き続き、インフラ整備へのご協力をお願いしたい。リニア中央新幹線の開業に向けて東京－名古屋間は岐阜県、愛知県、名古屋市と、名古屋－大阪間は大阪府、奈良県と一緒に取り組んでいく。中経連にもご協力をお願いしたい」と述べられた。



その後、双方の重点事業の説明と自由懇談が行われ、防災・減災対策の推進と国土強靱化税制の創設要望、各地域のインフラ整備に向けた取り組み、サービス産業の生産性向上、観光産業の振興などについて幅広く意見交換を行った。

(企画部 岡戸 信之)

委員会活動

第1回税制委員会

7月19日(水)、税制委員会は平成29年度1回目の委員会を開催、委員長の上田副会長をはじめ14名が参加した。



上田委員長による挨拶の様子

本委員会では、わが国の中長期的な課題の解決や、経済社会の発展に資する税制の提言を主たる任務としている。

委員会の第1部では、「前年度活動についての報告」および「今年度税制

要望活動についての審議」を行った。前年度活動については、国土強靱化税制創設に向けた取り組みを中心に説明を行った。今年度税制要望活動についての審議では、税務手続きの負担軽減、合理性を欠く税制の見直し、また、わが国の抱える本質的な課題解決のために税制のあるべき姿などについて活発な意見交換が行われた。

第2部では、関西大学名誉教授の矢野秀利氏を講師に迎え、「日米の所得税制の比較検討」を



ご講演いただいた矢野氏

テーマにご講演いただきました。所得税について、米国では個人も全員申告制であるが、日本では源泉徴収制度が採用されている。そのため、日本では所得税負担の感度が鈍くなりがちで、相対的に消費税などの負担感が大きくなっている等の問題点についてご説明いただきました。

本委員会は、9月上旬の「平成30年度税制改正に対する意見書」のとりまとめに向け、引き続き検討を深める予定である。

(調査部 大西 一樹)

第1回企業防災委員会

7月24日(月)、企業防災委員会は平成29年度1回目の委員会を開催、委員長の小川副会長、共同委員長の今井理事をはじめ38名が参加した。

本委員会は、昨年度までの防災特別委員会と企業防災連絡会での活動を統合し、地域や企業における防災・減災対策の推進を目的として、今年4月に設置された。

委員会に先立ち、アイシン精機(株)取締役副社長の岡部均氏を講師に迎え、「熊本地震 感謝の復旧(学び・気づきについて)」と題し、昨年4月に発生した熊本地震での関係会社の被災状況や復旧までの道のり、復旧活動の実体験から得られた“学び・気づき”等についてご講演いただきました(講演会は全会員を対象に開催。本誌10月号に講演要旨を掲載予定)。

委員会では、小川委員長、今井共同委員長の挨拶に続き、事務局より本委員会の活動内容や、



小川委員長(右)による挨拶の様子、左は今井共同委員長



委員からの発言の様子

新たに専門委員会を組成して意見交換を行っていく旨を説明し、承認を得た。

委員からは、

「防災・減災対策の取り組みを促す情報発信を継続して行うことが重要」「個社の努力だけでは解決できない部分が多いため、異業種での意見交換は有意義」「企業だけでなく行政や大学との連携強化の役割を期待する」「身近な取り組みも情報共有できればブラッシュアップに役立つ」「資金面や人材面で課題のある企業を支援するような制度の創設につながる活動ができると良い」など、多くの意見が出された。

(社会基盤部 小池 貴士)

第1回人材育成委員会

7月27日(木)、人材育成委員会は平成29年度1回目の委員会を開催、委員長の中村副会長をはじめ35名が参加した。



中村委員長(中央)による挨拶の様子、右は鮎京副委員長、左は古澤副委員長

本委員会では、今年度より鮎京委員(愛知県公立大学法人理事長)ならびに古澤委員(東海光学(株)代表取締役会長)に副委員長としてご就任いただきました。

冒頭、中村委員長の挨拶に続き、事務局から、今年5～6月に実施した人材育成に関する会員アンケートの調査結果の概要を報告した。

引き続き、今年度に策定する予定の中部圏の未来を支える人材の育成に関する提言書の中間案を説明した。



委員からの発言の様子

その後審議に移り、委員からは、「IT等、新興産業の経営者や女性起業者の意見も参考にしてください」「提言項目に対する目標値を設定してはどうか」「人材育成の中部圏モデルを示すことができるか」「提言の実現に向けたプロセスづくりが課題である」など、建設的な意見が活発に出された。

今後、これらの意見を踏まえて検討を進め、次回の委員会において、最終案の審議を行う予定である。

(企画部 久保田 孝重)

第33回Next30産学フォーラム

7月27日(木)、Next30産学フォーラムは33回目のフォーラムを開催、54名が参加した。

今回は、南山大学総合政策学部准教授のオコネル・ショーン氏による講演、愛知工業大学情報科学部情報科学科准教授の梶克彦氏による講演&グループディスカッション、その後懇親会を行った。

オコネル氏は、「文化・価値観の違いを克服 ～異文化間ビジネスコミュニケーションの基本～」をテーマに、外国人とのコミュニケーションは言葉だけでなく、相手の文化・習慣等を知った上でやり取りをしないと相手の考えを理解することができな



参加者に質問を投げかけるオコネル氏

と強調。今後の多文化共生社会の到来を見据えて、日本人は自国の文化・習慣等を明確に伝えるとともに、相手の意見も尊重

して、互いに共有できるルールや価値観を築いていくことが重要であると述べた。

梶氏は、「モチベーション刺激による行動変容」をテーマに、未解決となっている社会問題を解決するためには、人のモチベーションを刺激して行動に移すことが最も良い方法であると述べ、幾つかのアイデアを例示。これを踏まえ参加者は4~5名のグループに分かれ、「エスカレーターの片側通行をやめさせるには」「学生が研究室に来てくれるには」というテーマに対して意見交換を行った。最後は各グループから発表を行い、参加者にとって新たな発想や気づきを得る機会となった。



グループ発表の様子、左端は梶氏

懇親会では、ポスターセッションを実施し、名古屋経済大学経営学部准教授の山下幸裕氏が「第4の価値軸“感性”をどう扱うか」をテーマに、大同大学情報学部総合情報学科“かおりデザイン”専攻准教授の棚村壽三氏が「においの仕組みと測り方」をテーマに、それぞれの研究内容について紹介を行った。両氏は、映像や測定器など参加者の興味を引くツールも活用し、多くの参加者が両氏の発表を熱心に聞き理解を深めた。



においの嗅ぎ分けに夢中になる参加者たち

(イノベーション推進部 水田 晴久)